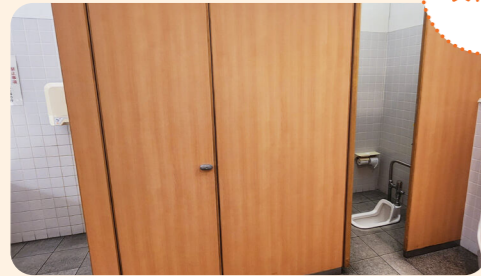


Area 03: トイレ

色の違いで扉の位置を
分かりやすく。

扉



改修前

周囲に溶け込み、トイレの扉が
わかりにくい。



改修後

トイレの扉だけ色を変えることで
わかりやすく。



識別補助

扉に貼られたシンプルで
大きな洋式トイレのマーク。

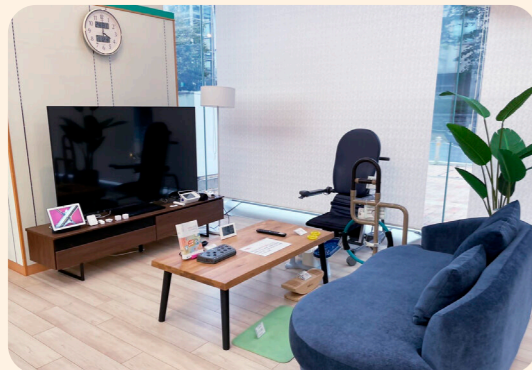


動作補助

鍵のそばに平仮名で
「ひく」と大きく表示。

認識を助けるヒント

リビングの工夫



ソファと床の明度を変え、座る場所を認
識しやすく。

中身が見える収納



写真と文字を貼り、開けなくても中身が
分かるように。

施設情報

テクノケア北九州（北九州市立介護実習・普及センター）
北九州市小倉北区馬借1丁目7-1 総合保健福祉センター1階
TEL: 093-522-8721
開館時間 9:00～17:30 / 休館日 月曜日・祝休日・年末年始



https://www.city.kitakyushu.lg.jp/contents/175_00002.html

お問い合わせ先

北九州市保健福祉局 認知症支援・介護予防課
TEL: 093-582-2063

令和8年3月発行

認知症にやさしいデザイン 導入事例

～総合保健福祉センター編～

「認知症にやさしいデザイン」とは

ユニバーサルデザインをベースとして、認知症の人だけでなく

あらゆる人にとって分かりやすいデザインです。

明度のコントラストを使ったり、一目で分かるサインを使ったりすることで、
記憶に頼らず、その場所の情報だけで迷わず行動できる空間を実現します。

「場所がわからない」「使い方がわからない」。その解決のヒントを、
総合保健福祉センター1階トイレとテクノケア北九州の
改修事例から紹介します。



改修前



改修後

「改修前」と「改修後」で見比べる、環境改善の事例

Area 01: 誘導サイン

情報量は最小限に。

トイレのサイン表示



改修前

情報が多すぎるため、必要な情報が埋もれてしまう。



改修後

情報量が抑えられ、必要な情報が遠くからでも自然に目に入る。



改修前

サインが高い位置にしかなく、探さなくてはならない。



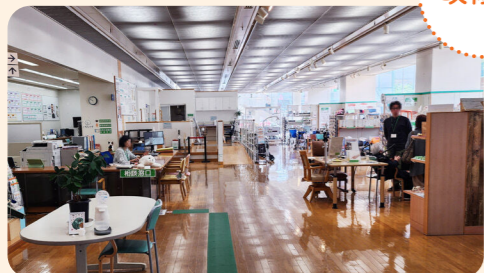
改修後

色分け(女性=赤、男性=青)した大きなサインを視線の高さに設置することで、探さなくても目的の場所がわかるようになる。

Area 02: 床

安心な移動のために。

床材



改修前

照明の反射が強く、濡れているように見えて歩きにくい。



改修後

光の反射を抑えた床材に変更することで、映り込みを防ぎ、安心した移動が可能になる。

Area 03: トイレ

見つけてもらいたいものは、自然と目に入るように。

壁と設備



改修前

洗面台が背景と同じ色のため、見つけにくい。



改修後

背景の色を変えることで、白い洗面台が見やすくなる。



改修前

手すりや洗面台が壁面と同じ色で見つけにくい。



改修後

壁面の色を変えることで、白い手すりや洗面台が見つけやすくなる。



改修前

便器と壁面が同じ色で、距離感がつかみにくい。



改修後

壁面の色を変えることで、白い便器の位置がわかりやすくなる。

色の違いで便器の位置を分かりやすく。

便器



改修前

便器やペーパーホルダーが壁面と同じ色で見つけにくい。



改修後

壁面の色を変えることで、白い便器やペーパーホルダーが見つけやすくなる。また、壁と床の境界をはっきりさせることで空間認識を助ける。

必要なものはすぐに目につくように。

個室内